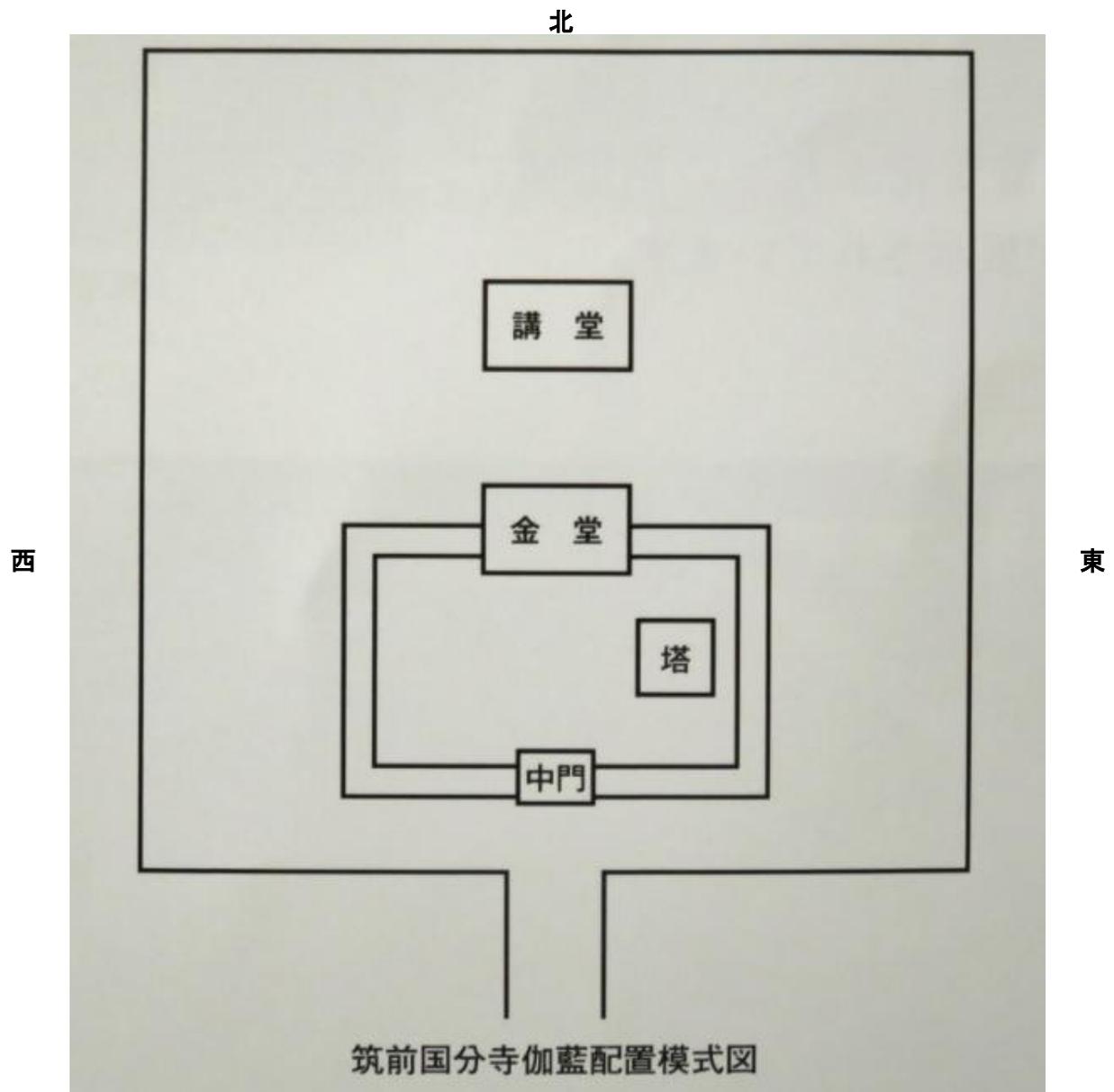


筑前国分寺跡(太宰府市)

財団法人 古都大宰府保存協会 2014筑前国分寺跡とその周辺冊子 より





中門の更に南側にあった南門の辺りから中門・金堂・講堂方向を見たところ/右手は天満神社



この辺りに中門があった/前方は「竜頭光山 筑前国分寺」/現在その本堂が筑前国分寺の金堂跡付近に建っている



これは八角燈籠



はっ かく とう ろう
八角燈籠

この燈籠は奈良東大寺大仏殿の前にある銅製八角燈籠をモデルとして製作しました。火袋^{ひぶくろ}には、音声^{おんじょう}菩薩^{ぼさつ}がさまざまな楽器を手に浄土の音色^{かな}を奏^{かな}でており、堂々とした形は奈良時代の大陸志向をうかがわせるものです。

東大寺は奈良時代に全国の国分寺の中心として建立され、金光明^{こんこうみょうし}四天王^{てんのうご}護国^{こく}之寺^{のてら}と呼ばれていました。そこでこの場所が国分寺の正面にあたることから、縁^{ゆかり}のものを建立しました。

文化ふれあい館の広場にある七重塔模型とあわせて、当時の国分寺をしのぶ資料となれば幸いです。

右手に標柱が立っている



「聖武帝勅建筑前國分寺碑」とある



振り返って中門・南門方向を見たところ



さて、これは南東側から北西方向に塔跡・金堂跡を見たところ/手前はそれぞれ西方向、北方向へ延びる回廊跡



西方向へ延びる回廊跡/前方が中門跡



北方向へ延びる回廊跡



南側から見た塔跡の基壇/右手に説明板が立っている





筑前国分寺跡

ちくぜんこくぶんじあと
Tikuzen Kokubunji Temple Ruins

国分寺は、奈良時代の中頃、諸国に置かれた官寺で僧寺と尼寺があった。当時は天然痘の流行や内乱などの社会不安が続いたため、平安を願うべく、聖徳太子は諸国に国分二寺の建立を命じた。世に言う「天平十三年の詔(741年)で、筑前国分寺は、大宰府政庁西北の見晴らしの良い丘の上に建てられた。しかし、その創建についての記録は残っていない。ただ、西海道の国分寺が天平勝宝8年(756)には建てられていた記録があるので、筑前国の国分寺もこの頃までには完成していたと考えられる。

創建当時の筑前国分寺は、約192m四方の寺域に金堂・七重塔・講堂などの建物が整然と配置されていたが、律令体制の衰退とともに国分寺の役割も失われていき、建物も荒廃していった。

発掘調査の結果、当時の講堂や塔・回廊の一部が確認され、その構造と規模が判明した。調査後は整備が施され、塔基礎や回廊の基礎部分が平面的に表示されている。

Kokubunji temples and Kokubunji nunneries were constructed in every province throughout Japan by the Emperor Shomu's decree in 741 A.D. in the hope that Buddha would bring peace and social stability. Chikuzen Kokubunji was one of them.
The seven-storied pagoda is restored on a scale of 1/10 in Daishi City Funako Cultural Park.

筑前国分寺跡の発掘調査は、発掘調査開始から約40年が経過し、塔の基礎や回廊の基礎など、当時の建物の構造と規模が判明した。調査後は整備が施され、塔基礎や回廊の基礎部分が平面的に表示されている。

もっと詳しく知りたい方は、史料館までお問い合わせください。
大宰府歴史資料館(館内)または大宰府歴史資料館(館外)までお問い合わせください。

所在地 太宰府市国分4丁目13番1号ほか
指定名称 国指定史跡 筑前国分寺跡および国分瓦葺跡
指定日 大正11年10月12日



筑前国分寺跡創設配置



塔基の調査



復元された七重塔

どのような建物があったのか 筑前国分寺の建物は、講堂・金堂・中門が南北に直線的に配置される。特に金堂と中門は回廊で結び、その内部に塔を配する。これは九州の国分寺によく見られる配置である。東大寺や東照宮の国分寺は塔が回廊の外に配する形式であり、これとは異なる。筑前国分寺のような配置は奈良時代以前の寺に多くみられる古い形式のものである。

発掘調査の経緯から 1960年に発掘調査が開始され、現在は調査は続けられている。その結果、9世紀頃には塔や講堂が瓦葺基礎から石積基礎に改修されたことがわかった。また、10世紀には塔が、11世紀には講堂が焼失していたようである。平安時代の終わり頃にはその役割を終え、その後は金堂のみが単独的な建物として存続したと考えられる。

七重塔 天平13年の詔によれば、国分寺の塔は七重で、その中には金の文字で書かれた金泥明鏡王経一巻が納められていたという。この塔の調査では、塔の心礎(中央の礎石)周辺に築かれた礎石の下から階状に置かれた礎石が確認された。これまでに残っていないので、その性格は不明である。形や造りにかかわるものも残っていない。礎石、この塔の礎石(10分の1)が、太宰府市文化ふれあい館の屋外に展示されている。

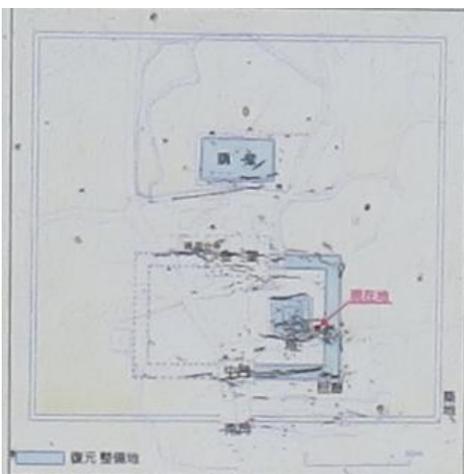
国分寺跡の案内図
国分寺跡の案内図
国分寺跡の案内図
国分寺跡の案内図

国分寺跡の案内図
国分寺跡の案内図
国分寺跡の案内図
国分寺跡の案内図

国分寺は、奈良時代の中頃、諸国に置かれた官寺^{かんじ}で僧寺と尼寺があった。当時は天然痘の流行や内乱などの社会不安が続いたため、平安を願うべく、聖武天皇は諸国に国分二寺の建立を命じた。世に言う“天平十三年の詔”^{みことり}（741年）で、筑前国分寺は、大宰府政庁西北の見晴らしの良いこの丘陵上に建てられた。しかし、その創建についての記録は残っていない。ただ、西海道^{せいかう}の国分寺が天平勝宝8年（756）には建てられていた記録があるので、筑前国の国分寺もこの頃までには完成していたと考えられる。

創建当時の筑前国分寺は、約192m四方の寺域^{こんどう}に金堂・七重塔・講堂などの建物が整然と配置されていたが、律令体制の衰退とともに国分寺の役割も失われていき、建物も荒廃していった。

発掘調査の結果、当時の講堂や塔・回廊の一部が確認され、その構造と規模が判明した。調査後は整備が施され、塔基壇^{きだん}や回廊の基礎部分が平面的に表示されている。



筑前国分寺跡伽藍配置

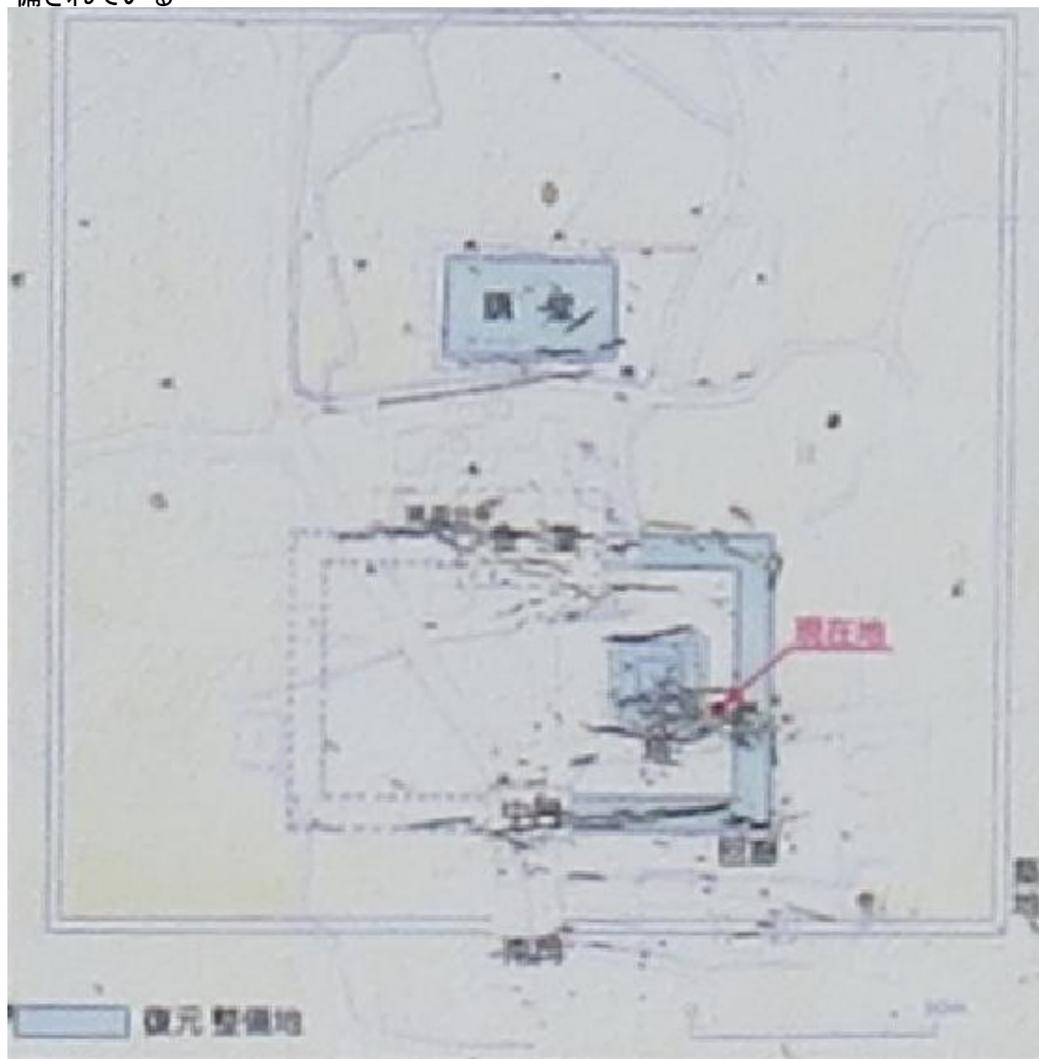


塔跡の調査

どのような建物があったのか 筑前国分寺の建物は、講堂・金堂・中門が南北に直線的に配置される。特に金堂と中門は回廊で結ばれ、その内部に塔を配する。これは九州の国分寺によく見られる伽藍配置である。東大寺や東国の国分寺は塔が回廊の外に在る形式であり、これとは異なる。筑前国分寺のような伽藍配置は奈良時代以前の寺に多くみられる古い形式のものである。

発掘調査の成果から 1960年に発掘調査が開始され、現在も調査は続けられている。その結果、9世紀頃には塔や講堂が瓦積基壇から乱石積基壇に改修されたことがわかった。また、10世紀には塔が、11世紀には講堂が廃絶していたようである。平安時代の終わり頃にはその役割を終え、その後は金堂のみが草堂そうどう的な建物として存続したと考えられる。

中央の軸線上に下から南門跡、中門跡、金堂跡、講堂跡/中門と金堂を繋ぐ回廊に囲まれたエリアの右側に塔があった/南門には築地が取り付いている/青色の部分が復元整備されている



筑前国分寺跡伽藍配置



復元された七重塔

七重塔 天平13年の詔によれば、国分寺の塔は七重で、その中には金の文字で書かれたこんこうみょうさいしょうおうきょう金光明最勝王經一部が納められていたという。この塔跡の調査では、塔の心礎しんそ（中央の礎石）周辺に据えられた礎石の下から環状に置かれた配石が確認された。これまでに例がないもので、その性格は不明である。祭事や法要にかかわるものなのかもしれない。現在、この塔の復元模型（10分の1）が、太宰府市文化ふれあい館の屋外に展示されている。

これが太宰府市文化ふれあい館に展示されている七重塔の1/10の復元模型



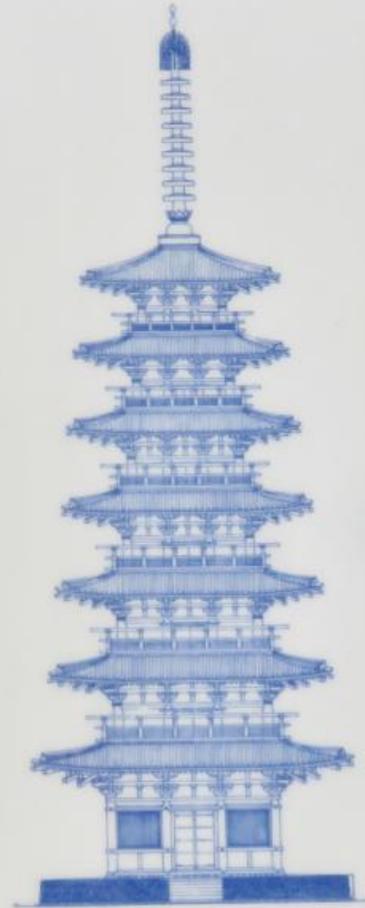
筑前国分寺七重塔

この模型は筑前国分寺に建てられていた七重塔を1/10のスケールで復原したものです。復原した高さは5.4mですが実際はその10倍ということになり、遠くからでも見るのができたでしょう。

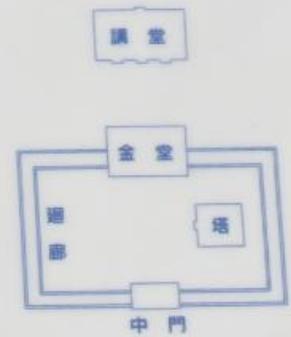
国分寺は741年に聖武天皇が国を護る目的で全国に命令して建てさせたもので、福岡県内には他に筑後国分寺（久留米市）、豊前国分寺（豊津町）がありました。

塔が完成した当初は柱が朱色、壁は白色、窓（蓮子窓）は緑色に塗られ、相輪や風鐸は金色に輝いていました。今回の復原はその当時の色を塗らず、もし今日まで建ち続けていたらこのような感じになっていたのではないかという思いから、古色で仕上げてみました。

古代の大宰府にはこのほかに観世音寺、般若寺、杉塚庵寺などに塔があり、都をイメージさせる風景が広がっていましたが、いまはその礎石を残すのみとなっています。



七重塔実測図



筑前国分寺伽藍配置図



筑前国分寺から出土した軒先瓦



これは北東側から南西方向に見た塔跡の基壇/手前は回廊跡



北側から見た塔跡の基壇/手前は回廊跡



その回廊跡を東方向に見たところ/前方で右手(南方向)に折れている



塔跡の基壇を東方向に見たところ



同じく南方向に見たところ/前方に階段がある



こんな塩梅



南側から北方向に見たところ



基壇に登って北東方向を見たところ/礎石が残っている



南東方向に見たところ



南西方向に見たところ



東側の階段



中央は深礎



こんな塩梅



さまざまな形の礎石がある







さて、金堂跡の背後(北側)に講堂跡がある/東側からその基壇を見たところ



近寄って南東側から北西方向に見たところ/説明坂が立っている



劣化していて良く読めない

講堂跡

昭和五十二年年度の発掘調査の結果から、建物遺構は二期にわけられる。

一期遺構・基壇上部が大きく削平され、しかも基壇の西側部分がカットされているため基壇規模を直接知り得ないが、基壇南辺中央階段および北辺階段の中心を結んだ線を折り返すと約三十四米になり、また階段の幅及び礎石根石下に配された環状配石から推定すると七間×四間の四面庇建物になる。

整備はこの一期遺構を平面復原したものである。

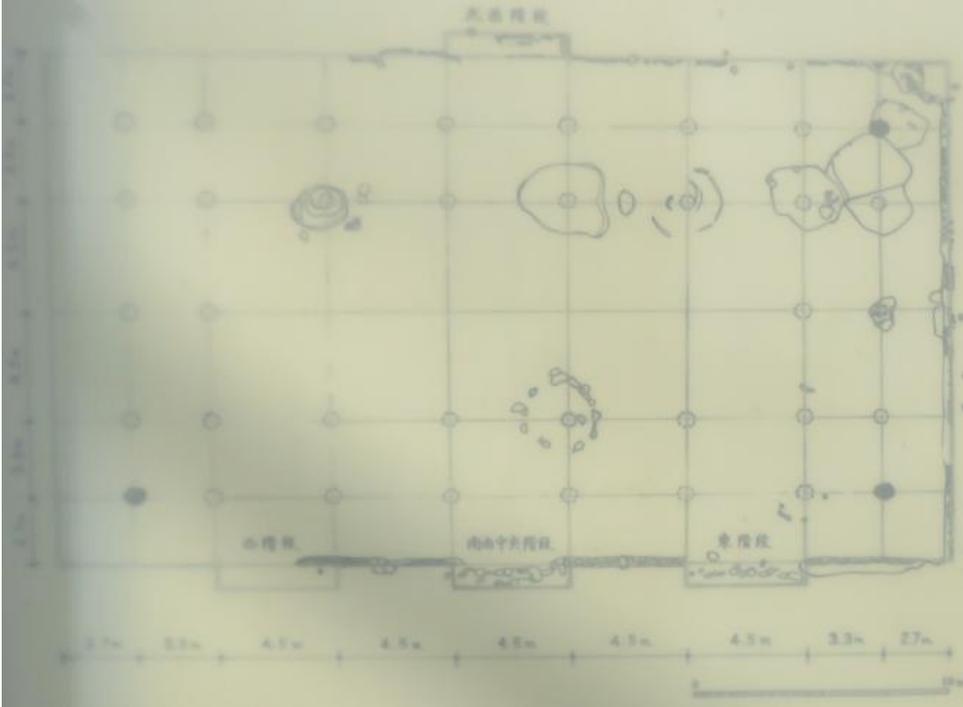
礎石は大部分紛失しているため一応三個だけ配した。その他の平面規模等についてはわからない。

昭和五十五年一月

福岡県教育委員会

国分寺講堂跡発掘調査図

● 礎石
○ 礎石位置



左手に階段がある



こんな塩梅



基壇に登って北西側から南東方向に見たところ



礎石が残っている



説明坂には「礎石は大部分紛失しているため一応三個だけ配した」と記されている



北側から基壇を見たところ



北東側から南西方向に見たところ



そこで振り返ると説明板があった



市指定天然記念物



わか みや じん じゃ もり
若宮神社の杜

太宰府市指定文化財 第10号
平成21(2009)年3月3日指定
所在地:太宰府市国分四丁目656

The Woods of Wakamiya-jinja shrine
와카미야신사의숲

この杜は、3本のムクノキの巨木で形成されています。それぞれの大きさは、1号木は樹高18.3m、幹周4.8mを測り、市内最大のムクノキで、福岡地方でも最大級の大きさを誇ります。2号木は樹高18.7m、幹周3.7m。3号木は樹高15.1m、幹周2.45mを測り、道に被さるように傾き繁茂しています。

ムクノキの根元周囲には、ヤブツバキ、ネズミモチ、クスノキ、シロダモ、サカキ、シュロ、ツツジ、シャリンバイなどが生育しています。それらも含めて、この杜全体が天然記念物として保護されています。

この杜については、明治初期の『福岡縣地理全誌』に、「若宮神社 村ノ東一町許林中ニアリ。石祠。三尺四面。樹ノ枝ヲ取レハ。崇アリリトテ。里民恐ル。」と記され、近くの国分天満宮の祭りなどに枝を用いる以外は、人の手がほとんど加えられることのない森であったと考えられます。



若宮神社の石祠

ムクノキの根元にある小さな祠は、若宮神社と呼ばれ、その石扉には享和4(1804)年建築の陰刻があり、「筑前国続風土記附録」(寛政10(1798)年)や『太宰府旧蹟全図北図』(文化3(1806)年)にも若宮神社の名がみられます。市内には石祠を本殿とする神社が多くありますが、その中で年号が記された石祠では市内最古のものです。

また、石祠の前にある礎石は、筑前国分寺跡のものが移されたと考えられます。



夏の若宮神社の杜



冬の若宮神社の杜(左から3号木、1号木、2号木)

※注意

この杜は天然記念物に指定されていますので、樹木の伐採・剪定・採取等は固く禁止されています。

平成24年3月 太宰府市教育委員会

さて、これは「竜頭光山 筑前国分寺」の山門



正面が本堂のようだ



扉には菊の紋が



こちらは南門跡近くの天満神社



境内に石碑があった/前方の山は大野城跡が展開する四王寺山らしい



大野山 霧立ち渡る

わが嘆く 息嘯の風に 霧立ちわたる

山上憶良

原文 大野山 紀利多知和多流 和何那宜久 於伎蘇乃可是尔

紀利多知和多流

万葉集卷五 七九九

大意 大野山に霧が立ち渡っている。私が亡き妻を想って吐く、深い深いため息で、一面に霧が立ちわたっている。

大宰帥として赴任した大伴旅人は、着任後間もなく愛妻大伴郎女を亡くす。

当時筑前守としてこの地にあった山上憶良は、神亀五年（七二八）七月二十一日、長歌に五首の反歌をつけ、「日本挽歌一首」として旅人に奉った。その反歌の最後に詠まれたもの。背後の大野山（四王寺山）には、よく霧が立ち、旅人の嘆きを現在に伝えている。

この解説板は「歴史と文化の環境税」で作成しています。

参考ホームページ

<http://kofunmeguriwalking.web.fc2.com/kokubunjiato.html>

<https://blog.goo.ne.jp/kurihira201/e/72e256fe2af68d17ea3f9c79548fab94>

<https://yukos.securesite.jp/dazaifu/d0bkoku.htm>

<https://www.fukuokashiden.net/%E5%9B%BD%E5%88%86%E5%AF%BA/>

https://blogs.yahoo.co.jp/tramping826/42234816.html?_yjsp=562R5YmN5Zu95YiG5a%2B66Leh

<https://barakan1.exblog.jp/12621872/>

